

カリキュラム・ポリシー

総合情報学部 経営情報学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1. 教育課程の編成及び特色

育成すべき人材像に対応したコンピテンシーを設定し、コンピテンシーに関連付けた科目を体系的に編成し、適切な教育方法で授業を実施します。科目間の関連は、その内容や難易度に基づきナンバリングして表現します。

経営にかかわる科目を体系的に学ぶために、ナンバリングを通して科目の履修順序などを表現し、ビジネスデザイン領域と地域ビジネス領域に編成されたカリキュラムの構造を分かりやすく明示します。学生は、自分の関心に応じて、2年次のスタートアッププログラム（履修指導）において領域を選択します。

2. 教育内容

（1）教養教育

本学の教育目的にある「生涯にわたって自ら主体的に学ぶ力を育成」という視点のもと、教養教育が定める人材像の育成を実現するために、「基礎教育科目」と「人間教育科目」から構成されるカリキュラムを定め、専門教育を支える幅広い基礎知識をバランスよく獲得するとともに、現代社会における市民性の涵養を目指すことにより、本学の特色ある教養教育の目的を達成します。

①「基礎教育科目」

中等教育までの学びを深め、学ぶ意義を理解すること、そして大学や生涯を通して共通基盤となる資質・能力と人間性の基礎を育成します。

②「人間教育科目」

「人間」「社会」「自然」「情報とクリティカルシンキング」「外国語」「総合」の科目群により、物事を幅広い視点からとらえる力、論理的な思考力・判断力、主体的に行動する知力や体力などを育成します。特に、国際交流科目では、異文化を理解し、「正解」のない世界規模の様々な難題について多様な見解を持つ他者との対話を通して自身の考えを深め、解決に向かっていく行動力を養います。また、キャリア教育では、自分の軸を定め、ワーク・ライフ・バランスのもとで、自己実現を果たし、社会貢献に資する人財を育成します。

（2）専門教育

①領域共通のカリキュラム

ビジネスデザイン領域と地域ビジネス領域に共通するカリキュラムの特色として、1年次から4年次までに履修すべき必修専門科目を2つの領域の共通科目とし、自分の関心に応じて履修する選択科目をそれぞれの領域に関連する形で配置します。さらに、情報技術を活用した経営課題の解決の核心は情報システムにあることから、これを具体的な事例とともに学ぶことによって、経営課題の発見と解決を総合的に考える力を育成します。

②ビジネスデザイン領域のカリキュラム

ビジネスデザイン領域は、経営学の専門科目を学修することを通じ、経営と情報技術に関連付け、広い視野から経営課題を発見し、改善・改革を主体的に企画・推進できる能力を育成します。

③地域ビジネス領域のカリキュラム

地域ビジネス領域は、地域ビジネスと情報技術に関連付け、マーケットの動向を分析し、新しい地域ビジネスの創造や地域活性化を推進できる能力を育成します。

3. 教育方法

教育の方法については以下のように定めます。

①基礎教育科目

初年次教育科目を含む「基礎教育科目」は、1年次を対象とし、20人から40人の少人数でクラスを構成します。これにより、グループワークや少人数で行うアクティブ・ラーニングを行います。また、初年次教育科目では、タイムマネジメント、倫理、心と体の健康、クリティカルシンキングへの導入なども行います。タイムマネジメントでは、ラーニングマネジメントシステム上に本学が構築した「週ごとの時間管理システム」を活用します。

②人間教育科目

「人間教育科目」は、1 年次から 3 年次に配置されます。多人数クラスになる科目がありますが、電子教科書および本学が開発した SNS 授業ツールも活用することで、アクティブ・ラーニングによる主体的な学びの実現を目指します。

③総合科目

「総合」の国際交流科目では、学生を海外に派遣します。一部の国際交流科目では、海外の学生との協調学習によりグローバル人材を育成します。キャリア教育では一部で学習者適応型 e ラーニングを取り入れます。

④主体的に学ぶ科目

経営情報学科で学ぶ意義・心構えを確立するため、またそれぞれの領域に則したコンピテンシーを意識させる科目として 1 年次から少人数ゼミナールを実施します。これは、6~7 人のクラスを単位として教員と対話する形で行ないます。

⑤4 年間の一貫した少人数専門教育

専門知識を活用した問題の発見・解決の方法の修得を PBL (Project Based Learning) などで行い、少人数ゼミナールを 4 年間実施することで学生の能力を引き出します。

⑥経営学と情報技術の基礎の徹底

本学科に入学した学生が学習意欲を継続できるよう経営学と情報技術の基礎を早期に学習できる環境を提供します。

⑦専門性を高める実践教育

学習者適応型 e ラーニングによって各自のペースで着実にデジタルビジネスの核心を修得します。ビジネスデザイン領域特有の科目として、デジタル技術のビジネスへの豊富な活用事例を通して、デジタルビジネスを修得します。

地域ビジネス領域では地域の課題解決実践の場として江別市のほか各地の自治体や自治会、NPO や企業と連携して地域ビジネスの推進者を育成します。

⑧社会連携

3 年次には実社会での就労を経験する科目や学外プロジェクトへの参加の環境を提供することをとおして、社会性と実務遂行能力の修得をサポートします。

⑨教職系専門科目

教職「商業」(高校)および教職「情報」(高校)の免許を取得するために必要な専門科目をビジネスおよび IT の専門家によって実践的に教育します。

4. 学修成果の評価

学修成果の評価は以下の方法で行います。

①コミュニケーション力開発等の科目

・初年次教育科目などコミュニケーション力開発等の科目では、レポート、面接等で評価します。

②実技系の科目

・実技系の科目では、実技で評価します。

③知識伝達型の科目

・知識伝達型の科目では、小テスト、定期試験、課題、レポート等で評価します。

④少人数ゼミナール科目

・少人数ゼミナールでは、主体的な問題解決能力やグループへの貢献意識、プレゼンテーションによる発表能力などを、ルーブリックなどを用いて客観的に評価します。

⑤4 年間の学修成果

・4 年間の学修成果は卒業研究によって評価します。この科目の単位認定条件としては、4 年次に研究計画発表会、中間発表会および卒業論文発表会における発表を学生に求め、複数の教員の評価のもと、担当教員が合格を判定します。卒業時点で、GPA 値の一番高い学生を成績最優秀者として選び、学位授与式において表彰します。